

地域薬剤師卒後教育研修のお知らせ

長崎大学薬学部地域薬剤師卒後教育研修センター長 中島憲一郎

長崎大学薬学部地域薬剤師卒後教育研修センター（以下センター）では、本年度から地域薬剤師を対象に卒後教育研修を開始することになりました。本年4月から、薬学6年制が開始されたこともあり、4年制卒業の薬剤師の更なる研鑽が求められています。現在、長崎県内では、「長崎県薬剤師アドバンスト研修プログラム」に沿った講習会が講義形式で実施されております。そこで学んだものをより深めるためには、実習や演習が必要です。そこで、本センターでは、従来の研修には見られない実習および演習を主体とした研修を実施することに致しました。

本年度は以下の要領で実施します。ぜひ自己研鑽のために本研修を受講していただきますようお願いいたします。

また、下記のコースとは別に特別講師による公開講演会を予定しておりますので、その際には多数の参加を期待しております。

期日：9～11月の土曜日6回。14：30～19：30

第1コース：9月9日、9月23日 10月7日

第2コース：10月21日、11月4日、11月18日

場所：長崎大学薬学部研修室、実習室およびCBT室

受講料：各コース 1万円

定員：約20名

認定単位：日本薬剤師研修センター認定1日3単位

主催：長崎大学薬学部地域薬剤師卒後教育研修センター、共催：(社)長崎県薬剤師会

申し込み方法：綴じ込みの申し込み用紙に記入の上、長崎大学薬学部総務係まで郵送またはファックスにてお申し込み下さい。定員になり次第締切らせていただきます。

〒852-8521 長崎市文教町 1-14

長崎大学薬学部 総務係 Tel: 095-819-2413、2415 Fax 095-819-2412

プログラム

第1コース：情報1－医療情報の入手と発信のために－

講師：長崎大学 薬学部 西田孝洋助教授、和田光弘助教授、大脇裕一講師、

最近のコンピュータ及びインターネット環境の急速な進展に伴い、薬剤師としてこれらを上手に活用して業務を行うことが必須となってきました。そこで情報1では身近な表計算ソフトExcelやプレゼンテーションソフトのパワーポイントの活用法の習得及びインターネットによる情報の収集と簡単な統計処理が行えることを目標とし、コンピュータを実際に取り扱いながら演習を行います。

第1回 「薬剤師に必要な情報処理」 初級編

・「まずはこれから、Excel 活用法」

Excel を用いた各種計算、関数、グラフの作成を行います。

- ・「あなたのパソコンは大丈夫？情報セキュリティー・モラルを考える」

情報セキュリティー対策の方法や情報モラルでの留意点（著作権や個人情報）を学びます。

第2回 薬剤師に必要な情報処理 中級編

- ・「Excel で学ぶ統計基礎」

Excel を用いた統計処理のうち t-検定、F-検定を中心に解説を行います。実際のデータを用いて演習を行い、臨床試験データに関する基本的知識を深めます。

- ・「インターネットを用いる医療情報検索」

インターネットを用いた医療情報あるいは文献検索法についての演習を行います。

第3回 地域薬局からの医療情報の発信

- ・「医療情報の吟味と加工、パワーポイントの有効活用」

医療情報に関する課題について、情報の収集方法の紹介及び得られた情報の評価を行い、パワーポイントを用いた情報発信の準備を演習します。

- ・「医療情報を発信してみよう」

課題に対するプレゼンテーションを行い、参加者による問題点の抽出とその解決についてディスカッションを行って行きます。

第2コース：薬物動態1 ー製剤の選択や服薬指導への活用に向けてー

講師： 長崎大学薬学部 西田孝洋 助教授

薬物動態は、投与量や投与間隔を決める重要なファクターであり、基本的な薬物動態パラメータは、調剤時の処方鑑査や服薬指導に活用できます。しかし、「薬物動態」や「薬物速度論」と聞くと堅いイメージを連想するため、敬遠する薬剤師が多いのではないのでしょうか。そこで薬物動態1では、薬物動態を身近に感じ、有効に活用するための勘所を把握することをねらいとしています。

第1回「ジェネリック医薬品の崩壊性や溶出性を調べてみよう」

・薬物動態に影響を及ぼす製剤特性を評価するために、日本薬局方の崩壊試験や溶出試験を実際に行います。特に、ジェネリック医薬品について先発品と比較し、生物学的同等性について考察します。

第2回「シミュレーション実験で薬物動態パラメータを知ろう」

・薬物動態のシミュレーション実験を、フラスコやポンプなどで組み立てた装置で行い、色素を薬物モデルとして用いて、薬物動態を視覚的に理解します。さらに、血中濃度や尿中排泄速度に相当するデータを、実際にグラフを書いて速度論的に解析し、薬物動態パラメータを計算し、添付文書や学術文献への理解を深めます。

第3回「薬物動態をエクセルで予測し、投与計画や服薬指導へ応用してみよう」

・Excel を利用して、基本的な薬物動態パラメータを用いて、静脈内注射や経口投与時の薬物動態を予測します。さらに、薬物相互作用や病態時などの各種症例において、薬物動態の変動を把握して、投与計画の最適化や服薬指導へ応用する総合演習を行います。